

## 横須賀市の児童生徒の読書実態調査集計結果について

### 1 調査の目的

令和4年度からの第4次横須賀市子ども読書活動推進計画の進捗状況把握のため本市における子どもの読書の実態（児童生徒対象）及び小中学校における子どもの読書活動の実態（小中学校対象）を調査しました。

### 2 調査の概要

#### (1) 調査内容

##### ア 児童・生徒

平均読書冊数や読書についての意識、学校図書館利用の調査（参考資料1）

##### イ 小中学校

学校における読書活動の取り組みの調査（参考資料2）

#### (2) 調査対象

##### ア 児童・生徒

・全対象数 合計 25,517人

・抽出数（回答数） 合計 5,617人

（市立小学校（4～6年生）・中学校各学年の抽出1クラス）

##### イ 小中学校

・回答数 合計 69人

（小学校（46校）、中学校（23校）の各学校教員1名（学校図書館担当等））

#### (3) 実施方法

学校用端末（Chromebook）により、アンケートを実施した。

#### (4) 実施期間

令和4年12月1日～23日（調査基準は令和4年11月の1カ月間）

### 3 調査集計結果と今後の対応

別冊「横須賀市の児童生徒の読書実態調査（報告書）」のとおり

### 4 結果の公表及び報告

(1) 市ホームページ及び学校イントラネット上で公表します。

(2) 調査実施学校に、当該学校分の集計結果を提供します。

(3) 第4次横須賀市子ども読書活動推進計画の進捗管理を行う社会教育委員会会議に、他の実施状況と併せて報告を行います。

## 横須賀市の児童生徒の読書実態調査（報告書）

令和5年(2023年)3月

横須賀市教育委員会

## I 調査概要

### 1 調査目的

令和4年度からの第4次横須賀市子ども読書活動推進計画の進捗状況把握のため、本市における子どもの読書の実態（児童生徒対象）及び小中学校における子どもの読書活動の実態（小中学校対象）を調査する。

### 2 調査対象

#### (1) 児童・生徒

横須賀市立小学校（4～6年生）・中学校（1～3年生）各学年の抽出1クラスの児童生徒に対してアンケートを実施した。

区分	全対象数		抽出数（回答数）	
	学校数	児童生徒数	学校数	児童生徒数
小学校	46校	16,785人	46校	3,604人
中学校	23校	8,732人	23校	2,013人
合計		25,517人		5,617人

#### (2) 小中学校

小学校（46校）、中学校（23校）の各校教員1名（学校図書館担当等）が回答した。

### 3 実施方法

学校用端末（Chromebook）により、アンケートを実施した。

### 4 実施期間

令和4年12月1日（木）～23日（金）

児童・生徒に対する調査基準は、令和4年11月の1カ月間

## II 調査結果の概要

### 1 児童・生徒における調査結果の概要

(調査結果を説明するにあたり、関連する問いをまとめたので、問いの番号が前後します。)

#### (1) 11月の1カ月の間に、本を何冊ぐらい読んだか。

ア 紙の本・雑誌・マンガについて(問3)

イ 電子書籍の本・雑誌・マンガについて(問5)

本の平均読書冊数は、小学生が10.8冊、中学生が7.8冊と、紙の本・電子書籍ともに増加した。特に中学生の読書冊数の増加が著しい。全国の中学生読書冊数が減少しているのに対し、本市の中学生の読書冊数は、全国平均を紙・電子・合計の全てで上回っている。

雑誌の読書冊数も小学生・中学生ともに増加した。

本を1冊も読まなかった小学生は9.4%で前回より改善している。中学生は、紙の本で比較すると9.2%も減少した。一方で、小学生・中学生ともに「5冊以上読んだ子どもの割合」が増えており、読書習慣のある子どもたちが増えている。

#### 小学生の読書冊数の全国との比較

区 分		今回調査値(4年度)			前回調査値(3年度)			基準値(2年度)		
		本	雑誌	マンガ	本	雑誌	マンガ	本	雑誌	マンガ
横須賀	紙	8.0冊	3.0冊	6.5冊	7.8冊	1.3冊	9.4冊	7.6冊	1.2冊	10.4冊
	電子	2.8冊	1.4冊	3.2冊	1.3冊	0.3冊	3.1冊	-	-	-
	合計	10.8冊	4.4冊	9.7冊	9.1冊	1.6冊	12.5冊	-	-	-
全国	紙・電子	13.2冊	3.3冊	-	12.7冊	3.6冊	-	-	-	-
	うち電子	1.0冊	0.4冊	-	-	-	-	-	-	-

#### 中学生の読書冊数の全国との比較

区 分		今回調査値(4年度)			前回調査値(3年度)			基準値(2年度)		
		本	雑誌	マンガ	本	雑誌	マンガ	本	雑誌	マンガ
横須賀	紙	4.4冊	1.9冊	4.9冊	2.5冊	1.0冊	7.5冊	2.7冊	0.9冊	9.3冊
	電子	3.4冊	1.1冊	4.7冊	1.4冊	0.6冊	5.7冊	-	-	-
	合計	7.8冊	3.0冊	9.6冊	3.9冊	1.6冊	13.2冊	-	-	-
全国	紙・電子	4.7冊	3.1冊	-	5.3冊	2.0冊	-	-	-	-
	うち電子	0.7冊	0.7冊	-	-	-	-	-	-	-

※1 全国数値は、全国学校図書館協議会が実施した令和4年6月調査の数値。(調査基準は、令和4年5月の1カ月間)なお、令和2年度の全国は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査は未実施。

※2 令和3年度報告時は、電子書籍の平均読書冊数を電子書籍の利用経験者だけで算出していた。今回の令和3年度電子書籍の冊数は、令和4年度や全国との条件を同一にするため、全対象者での平均読書冊数としている。

### 小学生の月間読書冊数別の割合

区 分		平均読書冊数	0 冊	1～4冊	5冊以上	無回答	合計	
小学生	紙	4 年度	8.0冊	11.5%	32.4%	56.1%	0.0%	100%
		3 年度	7.8冊	12.7%	39.9%	47.4%	0.0%	100%
	電子	4 年度	2.8冊	62.5%	18.5%	19.1%	0.0%	100%
		3 年度	1.3冊	82.4%	9.7%	7.0%	1.0%	100%

### 中学生の月間読書冊数別の割合

区 分		平均読書冊数	0 冊	1～4冊	5冊以上	無回答	合計	
中学生	紙	4 年度	4.4冊	27.9%	43.2%	28.9%	0.0%	100%
		3 年度	2.5冊	37.1%	49.7%	13.2%	0.0%	100%
	電子	4 年度	3.4冊	60.9%	16.9%	22.2%	0.0%	100%
		3 年度	1.4冊	83.3%	10.3%	5.6%	0.7%	100%

### 1カ月の間に読んだ本の冊数が0冊だった児童生徒の割合

区 分		今回調査値	前回調査値	基準値
		(4 年度)	(3 年度)	(2 年度)
小学生	紙	11.5%	12.7%	11.5%
	電子	62.5%	82.4%	—
	紙・電子 共に0冊	9.4%	—	—
	全国	6.4%	5.5%	—
中学生	紙	27.9%	37.1%	34.7%
	電子	60.9%	83.3%	—
	紙・電子 共に0冊	21.4%	—	—
	全国	18.6%	10.1%	—

(2) 電子書籍を利用することがあるか。(問4)

「よく利用する」が小学生・中学生ともに微減したが、「ときどき利用する」がそれより増えているため、利用すると回答した子どもは増えている。

「利用したことがない」子どもは、全国より少ない(下線数値)

区分	年度	よく利用する	ときどき利用する	あまり利用しない	利用したことがない	無回答	合計
小学生	4年度	14.4%	17.6%	22.0%	<u>45.9%</u>	0.0%	100%
	3年度	16.1%	14.4%	21.0%	47.4%	1.1%	100%
中学生	4年度	27.7%	22.1%	23.3%	<u>26.9%</u>	0.0%	100%
	3年度	29.1%	20.4%	22.6%	26.8%	1.1%	100%

《参考 全国の調査結果》

【問】電子書籍を読んだことがあるか

区分	年度	①ある	②ないが読みたい	③ないし読みたくない	②+③ 読んだことがない	不明・無回答
小学生	4年度	36.6%	32.5%	29.5%	<u>62.0%</u>	1.4%
中学生	4年度	52.8%	23.6%	22.8%	<u>46.4%</u>	0.8%

(3) 『紙の本』と『電子書籍』のどちらを読みたいか。(問12)

小学生・中学生ともに、『紙の本』が『電子書籍』より選ばれている。一方で、小中学生とも約5割の子どもは、『電子書籍』または『紙の本』と『電子書籍』の両方を読みたい、と回答しており、電子書籍を身近に感じている。

区分	紙の本	電子書籍	両方読みたい	両方読みたくない	合計
小学生	45.1%	14.9%	33.5%	6.5%	100%
中学生	35.9%	24.1%	31.2%	8.7%	100%

《参考 全国の調査結果》

【問】電子書籍を読んだことがある人への質問。『紙の本』と『電子書籍』のどちらが読みやすいか(わかりやすいか)。

区分	紙の本	電子書籍	わからない	無効・不明	合計
小学生	45.6%	34.4%	17.8%	2.3%	100%
中学生	40.4%	38.5%	19.6%	1.5%	100%

(4) 11月の1か月の間に読んだ本の中に、「自分で興味を持って選んだ本」(読んでみたいと感じて自分で選んだ本)があるか。(問6：問3、問5で本を1冊以上読んだ人への質問)

第4次子ども読書活動推進計画で新たに設けた指標についての問いである。子どもが主体的に読書に取り組んでいることを確認するための問いである。

区分	1冊以上入っていた	入っていない	無回答	合計
小学生	77.9%	18.8%	3.3%	100%
中学生	77.6%	22.4%	0.0%	100%

(5) これから、どんなジャンルの本を一番読んでみたいか。(問7)

小学生・中学生ともに物語・小説等が半数を占めた。次いで、小学生は知識の習得や、勉強に関連するものが上位となった。中学生は趣味や部活に関連する、今後の人生について考える本が上位となっている。

その他では、小中学生とも「マンガ」という回答が最も多かった。

ジャンル	小学生	中学生
物語、小説、詩、エッセイなど	43.5%	57.1%
自然科学(算数・宇宙・動物・虫・植物)の本	11.8%	6.5%
芸術(音楽・図工・美術・写真)・スポーツの本	9.6%	7.8%
日本や外国の歴史・地理の本	8.2%	4.3%
技術(ものづくり・料理・手芸)や機械・乗り物の本	6.4%	3.1%
絵本	4.2%	4.6%
こころや人生について考える本	3.9%	4.5%
言葉(日本語や外国語・方言)の本	2.3%	2.6%
調べるための本(百科事典・図鑑・横須賀などの地域の資料など)	1.8%	1.6%
社会のしくみ(政治や経済・国際理解)や民族の文化(行事・民話)の本	1.8%	1.8%
いろいろな仕事(農業・漁業・商業)の本	1.1%	1.1%
新聞	0.7%	0.4%
その他	4.8%	4.5%
合計	100%	100%

その他欄の内容：

- ・小学生は、全体の3%の児童が『マンガ』と回答。次いで、『趣味の本』、『複数回答』、『読みたいジャンルがない・わからない』の順となる。
- ・中学生は、全体の2%の生徒が『マンガ』と回答。次いで『読みたいジャンルがない・わからない』の順となる。

#### (6) 児童・生徒が考える今後もっと本を読むための一番効果的な工夫はなにか(問8)

「学校で定期的に読書をする時間を作る」、「学校図書館に借りたくなる本が増える」、「学校図書館が昼休みや放課後に開いている」といった学校での工夫が半数以上を占めた。また、電子書籍が読める環境や、1人1台端末を活用した市立図書館の本の予約など、インターネット環境の充実を工夫に挙げる回答も多かった。

工夫の例	小学生	順位	中学生	順位
学校で定期的に読書をする時間をつくる	31.3%	1	32.1%	1
学校図書館に借りたくなる本がふえる	25.4%	2	19.2%	2
おとなや友達が『おすすめの本』を教えてくれる	9.9%	3	7.2%	5
学校図書館が昼休みや放課後に開いている	8.2%	4	6.1%	6
放課後や休日に自由になる時間が増える	7.8%	5	13.5%	3
児童生徒用端末(クロムブック)で市立図書館の本が予約できる	6.8%	6	4.9%	7
電子書籍を読むことができる端末(スマホ・タブレットなど)が自宅にある	6.3%	7	11.8%	4
市立図書館・行政センターの図書室に借りたくなる本が増える	1.6%	8	1.8%	8
その他	2.6%	9	3.4%	9
合計	100%		100%	

#### 「その他」(自由記載)の抜粋

##### 子ども自身へのアプローチ (小学生31件、中学生14件)

**小学生**・自分に合いそうな本を探す

- ・1日のスケジュールを作り、1日30分でも読書の時間を入れる
- ・読むのではなくて聞くなどが個人的にはいいと思う
- ・学校で金曜日に本を借りる
- ・言葉を覚える・勉強・語彙力

- 中学生**・自分で読みたいと思った本を読む
- ・他のメディア（TV などの内容）から関連する本に興味を持つ
  - ・漫画などを買うついでに気になる小説などを探してみる
  - ・スマホ・ネットで（読みたい本を）調べる

#### **学校側の工夫**（小学生 26 件、中学生 20 件）

- 小学生**・1 か月に 1 冊以上、自分のおすすめの本を展示する場所を作る。
- ・借りることができる本の数が増える
  - ・貸出期間を少し長くする。
  - ・毎日学校の図書館が利用できる
  - ・放課後に学校の図書館が利用できる。
  - ・本を借りる時間を作る
  - ・本を読むイベントをして、皆に参加してもらう
  - ・読みたい本のアンケートを取り、その本が抽選で当たったら図書館に並ぶ。抽選結果を当選者に送る。
  - ・朝休みに本を読む時間を作る
  - ・漫画を借りることができるようにする
- 中学生**・休日に図書館が開放されていれば、好きな時間に行き、図書室で勉強をしてそのまま興味のある本を読むことができると思う。
- ・教室に本を置く
  - ・教室近くに本の貸出エリアを作る
  - ・図書室を教室の近くにする
  - ・授業で図書室を利用し好きな本を選べる。（休み時間は行きづらい）
  - ・朝読書の時間を増やしたり、月 1 回など定期的に授業で図書室に行く時間を作る。
  - ・図書館の利用率が上がれば今図書室にある本の魅力にも気づいてもらえると思うので、中学生が興味のある本（漫画など）を増やして生徒が本を読むきっかけを作る。
  - ・学校図書館に読みたい本が増え、ファンタジー物語などが増えれば読む人も増えるのでは。また、そもそも本を読む習慣がない人もいるので、そういう人に対してどのように本に触れさせるのかも考えていったほうがいい。
  - ・市営図書館などの認知度を上げるためマップなどを貼り出す

#### **電子書籍**（小学生 5 件、中学生 6 件）

- 小学生**・学校で電子書籍が利用できる
- 中学生**・学校のクロムブックで電子書籍を読むことができる。

(7) 本を読むのが好きか。(問9)

「好き」、「どちらかといえば好き」の割合は、小学生は79.8%（前年度比0.9%増）、中学生は73.5%（前年度比3.3%増）で、中学生は前回より大きく増えた。一方、「きらい」は中学生では0.8%減少したが、小学生は1.3%増えた。

区分	年度	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえばきらい	きらい	無回答
小学生	4年度	39.9%	39.9%	14.1%	6.0%	0.0%
	3年度	40.9%	38.0%	15.3%	5.3%	0.4%
中学生	4年度	33.5%	40.0%	18.1%	8.3%	0.0%
	3年度	32.3%	37.9%	20.2%	9.5%	0.1%

(8) 授業以外で学校図書館を利用したことがあるか。(問10)

「あまり利用しない」、「利用したことがない」の割合は、小学生は55.5%（前年度比8.6%増）で前回より増えた。中学生は76.4%（前年度比1.0%減）で前回より減っている。

区分	年度	よく利用する	ときどき利用する	あまり利用しない	利用したことがない	無回答
小学生	4年度	13.5%	31.1%	49.0%	6.5%	0.0%
	3年度	17.2%	35.0%	37.5%	9.4%	0.9%
中学生	4年度	6.3%	17.3%	45.7%	30.7%	0.0%
	3年度	5.5%	16.0%	37.7%	39.7%	1.1%

(9) 学校図書館を利用しないのはなぜか。(1つだけ回答)(問11:問10であまり利用しない、利用したことがないと回答した児童生徒に対して質問している。)

小学生、中学生共に「利用したいが他の用事を優先したから」が一番の理由となった。また、「本は買う」や、「公立図書館で借りる」、「電子書籍の利用」などで、「読みたい本が手元にある」ため、学校図書館以外の読書環境があるという回答も全体の2割強となった。

学校	利用したいが他を優先	利用したいが図書館が開いていない	本は買う事が多いから	本に興味がないから	その他	無回答
小学生	38.6%	1.9%	18.2%	25.6%	14.7%	1.0%
中学生	27.2%	0.5%	26.8%	32.3%	12.4%	0.8%

《その他の内訳》

その他の内訳	小学生	中学生
読みたい本が図書館にない	29.9%	28.4%
時間がない・他のことをしたい (図書館を利用したいか不明)	22.4%	16.8%
読みたい本が手元にあるから	14.3%	6.8%
利用したいが、図書館が不便だから	11.9%	17.9%
本が嫌い・読みたくない	6.8%	4.7%
本を返すのを忘れるから	2.0%	0.5%
返すのが面倒くさい	2.0%	0.0%
本が清潔でない	1.4%	1.1%
クラス単位でよく図書館を利用するから	1.4%	0.0%
面倒くさい	1.0%	13.2%
その他	6.8%	10.5%
合計	100%	100%

(10) 第4次横須賀市子ども読書活動推進計画の目標値との比較

指 標		基準値 (2年度)	前回は (3年度)	今回調査値 (4年度)	目標 (7年度)	
1	1か月の 平均読書冊数	小学生 (紙のみ)	7.6冊 (紙のみ)	7.8冊 (紙のみ)	10.8冊 (紙のみ8.0冊)	9.6冊
		中学生 (紙のみ)	2.7冊 (紙のみ)	2.5冊 (紙のみ)	7.8冊 (紙のみ4.4冊)	4.7冊
2	自分で興味を持って 選んだ本を1か月に 1回以上読んだ子ど もの割合(新設)	小学生	—	—	77.9%	100%
		中学生	—	—	77.6%	100%
	1か月に1冊以上本 を読む子どもの割合 (旧指標)	小学生	88.5%	87.3%	(90.6%)	—
		中学生	65.3%	62.9%	(78.6%)	—
3	本を読むことが好 きな子どもの割合	小学生	78.2%	78.9%	79.8%	88.2%
		中学生	70.9%	70.2%	73.5%	80.9%

## (11) 調査結果の分析（児童・生徒）

### ア 読書量について

今回の実態調査結果は、中学生の読書冊数が昨年度の3倍以上の7.8冊と飛躍的に改善されたことが注目される。

昨年度までは、紙の本のみで読書冊数を計上していたが、紙の本だけを比較しても、2.5冊から4.4冊と1.9冊増加し、全国平均の4.0冊を上回った。また、小学生・中学生ともに読書冊数の0冊の子どもが減り、5冊以上読む子どもが増えた。これは、読書習慣のある子どもが増えたと考えられる。また、中学生の読書冊数が増えたことについては、中学校全校への司書配置の効果とも考えられる。

### イ 読書環境の課題解決について

今回の調査では、子どもたち自身の考える、読書活動を推進する工夫や読みたい本のジャンルについて質問をした。回答には、大人たちの努力により改善できるヒントがたくさんあった。子どもたちの2割は「学校図書館に借りたくなる本が増える」と、もっと本を読むと回答している。今回調査で多かった「読みたいジャンル」を参考に学校図書館の図書を充実していくことで、さらなる読書環境の向上につながると思われる。

### ウ 電子書籍について

紙の本と電子書籍では紙の本を選ぶ子どもが多い。しかし、中学生になると、電子書籍が読める環境を求める声が大きくなることがわかった。今後は、学校や市立図書館において、電子書籍に対する検討を急ぎ、環境を整えることが課題となる。

## 2 小中学校における調査結果の概要

- (1) 今年度、貴校では読書の推進に関する行事を授業以外で実施しているか。(問2)  
(複数回答可)

回答	小学校 (46校)	中学校 (23校)
朝読書	38校	13校
読み聞かせ (おはなし会)	29校	5校
図書委員会の児童生徒による取組	43校	19校
読書週間における読書イベント	39校	8校
読書感想画の取組	43校	6校
読書感想文の取組	35校	17校
実施していない	0校	0校

- (2) 問2で「実施していない」と回答した学校の理由 (問3)

※該当なし

- (3) 今年度、読書活動にボランティアを導入しているか。(予定も含む) (問4)

回答	小学校 (46校)	中学校 (23校)
導入している	27校	6校
導入していない	19校	17校

- (4) ボランティアが実施する具体的な取り組みとして、あてはまる項目を全て回答。  
(問5：問4で「導入している」と回答した学校に対し) (複数回答可)

回答	小学校 (27校)	中学校 (6校)
読み聞かせ (おはなし会)	19校	0校
学校図書館の蔵書の受入・廃棄等	16校	6校
学校図書館の環境整備 (掃除・飾付等)	21校	5校
学校図書館の図書の貸出・返却	2校	0校
その他	0校	0校

(5) 導入していない理由として、あてはまる項目を全て回答。(問6：問4で「導入していない」と回答した学校に対し)(複数回答可)

回答	小学校 (19校)	中学校 (17校)
導入したいが、人の確保が難しい	3校	4校
導入したいが、どのような活動を行って もらえばよいかわからない	1校	1校
新型コロナウイルス感染予防 (収束したら導入したい)	17校	5校
必要性を感じない	2校	7校
その他	0校	0校

(6) 市立図書館から配布されるブックリストをどのように利用しているか。(問7)

回答	小学校 (46校)	中学校 (23校)
配布のみ	22校	11校
ブックリストを活用した読書を勧めている	2校	1校
学校図書館の選書に活用	21校	10校
その他	1校	1校

(7) 1週間のうち、今年度、学校図書館が開館しているのはいつか。(問8-①)

回答	小学校 (46校)	中学校 (23校)
特別な事がなければ、毎日開館している	42校	18校
週に数回開館している	4校	5校

(8) 1日のうち、学校図書館が開館している時間はいつか。(問8-②)

回答	小学校 (46校)	中学校 (23校)
常時開いている	28校	1校
一定時間開いている (昼休み・中休み・放課後)	0校	—
一定時間開いている (昼休み・中休み)	15校	—
一定時間開いている (昼休みのみ)	1校	19校
その他	2校 (中休みのみ等)	3校 (昼休み・放課後)

(9) 学校図書館の図書の貸し出しは、誰が対応しているか。(問9) (複数回答可)

回答	小学校 (46校)	中学校 (23校)
教師	44校	9校
学校司書	43校	15校
児童生徒 (図書委員など)	45校	23校
学校図書館ボランティア	1校	1校

(10) 学校図書館の利用指導 (オリエンテーション) は、1年に1回以上行っているか。  
(問10)

回答	小学校 (46校)	中学校 (23校)
全学年で実施	41校	11校
一部の学年で実施	5校	12校
実施していない	0校	0校

(11) 児童生徒用端末 (Chromebook) を導入してから、電子書籍を活用した読書・調べ学習をすることはあるか。(問11)

回答	小学校 (46校)	中学校 (23校)
青空文庫などを活用している	3校	1校
活用したいが、適切なコンテンツがなく活用できていない	9校	10校
活用したいが、読書や調べ学習を行う時間的余裕がなく行っていない	3校	1校
電子書籍より紙の本を活用するため、活用していない	26校	11校
その他	5校	0校

小学校「その他」と回答した学校の主な記述：

- ・インターネットを活用している。しかし、なんでも見てよくなってしまうのが心配。
- ・子ども向けの電子書籍についての情報に乏しく、利用していない。
- ・活用を考えているが、費用等がわからず、活用できていない。

## (12) 調査結果の分析（小中学校）

- ・ 中学校への学校司書の全校配置の成果として、「学校図書館の利用指導」が全校で行われていること、教師が図書の貸し出しの対応をする学校が減少したこと（昨年度 21 校 → 9 校）、「朝読書」（昨年度 11 校 → 13 校）や「放課後開館」（昨年度 0 校 → 常時校を含め 4 校）をする学校が以前より増加傾向にあること等があげられる。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で、学校図書館ボランティアの活用を控えている小学校は依然多い。
- ・ 電子書籍については、利活用検討に前向きな学校と、「紙の本」を大切にしたいと考える学校に分かれている。

## 小中学生の読書についての調査

この調査は、読書についてのアンケート調査です。名前は書きません。  
アンケート結果は、クラスや学校ごとの発表もありません。

【問1】 あなたの学校を選んでください。

(学校名の羅列から選択する)

【問2】 あなたの学年をチェックしてください。

小学生

4年生

5年生

6年生

中学生

1年生

2年生

3年生

ここからは、『紙の本』についての質問です。

(『電子書籍(スマホやタブレット、パソコンで読む本)』は、いれないでください。)

【問3】 あなたは11月の1か月間に、紙でできている「本・雑誌・マンガ」を何冊読みましたか。かりて  
読んだ本もはいります。

ア、イ、ウのそれぞれについて、▼をクリックして読んだ本の冊数をクリックしてください。

【問3 ア】 本(紙の本)

(選択肢: 0冊~20冊、21冊以上は21を選んでください。)

【問3 イ】 雑誌(マンガの週刊誌・月刊誌なども入ります。)

(選択肢: 0冊~20冊、21冊以上は21を選んでください。)

【問3 ウ】 マンガ(雑誌は入りません)

(選択肢: 0冊~20冊、21冊以上は21を選んでください。)

ここからは、スマホやタブレット、パソコンで読む本『電子書籍(でんししょせき)』についての  
質問です。

【問4】あなたは、スマホやタブレット、パソコンなどで、『電子書籍』（本・雑誌・マンガ・オンライン小説どれでも）を利用することがありますか。

一番あてはまるものを1つだけチェックしてください。

- よく利用する
- ときどき利用する
- あまり利用しない
- 利用したことがない

【問5】あなたは11月の1か月間に、スマホやタブレット、パソコンで読む本（電子書籍）の「本・雑誌・マンガ」を何冊読みましたか。（雑誌には、マンガの週刊誌・月刊誌なども入ります。）

ア、イ、ウのそれぞれについて、▼をクリックして読んだ本の冊数をクリックしてください。

【問5 ア】本

（選択肢：0冊～20冊、21冊以上は21を選んでください。）

【問5 イ】雑誌（マンガの週刊誌・月刊誌なども入ります。）

（選択肢：0冊～20冊、21冊以上は21を選んでください。）

【問5 ウ】マンガ（雑誌は入りません）

（選択肢：0冊～20冊、21冊以上は21を選んでください。）

ここからは、『紙の本』・『電子書籍』の両方の本（雑誌やマンガは入りません）についての質問です。

【問6】11月の1か月の間に、1冊以上読んだ人にたずねます。

あなたが11月の1か月の間に読んだ本の中に、『読んでみたい』と感じて、自分で選んだ本は、1冊以上入っていましたか。（人からすすめられた本でも、『読んでみたい』と感じていれば、自分で選んだ本になります。）

あてはまるものを1つだけチェックしてください。

- 自分で選んだ本が1冊以上入っていた
- 入っていない





## 小中学校における読書活動の取り組みの調査

各設問の該当する項目にチェックをしてください。

『その他』の場合は、自由記載欄がありますので、具体的に入力してください。

【問1】貴校の学校名を選択してください。

(小学校名・中学校名の羅列から選択する)

【問2】今年度、貴校では読書の推進に関する行事を授業以外で実施していますか。

(複数回答可)

- 朝読書
- 読み聞かせ(おはなし会)
- 図書委員会の児童生徒による取り組み(本の紹介や読書キャンペーンなど)
- 読書週間等における読書イベント
- 読書感想画の取り組み
- 読書感想文の取り組み
- 実施していない
- その他( )

【問3】【問2】で『実施していない』と回答した学校にお尋ねします。

実施していない理由として当てはまる項目を全てチェックしてください。

- 実施したいが、時間の確保が難しい
- 立案や指導を行う教員がいない
- 必要性を感じない
- その他( )

【問4】今年度は読書活動にボランティアを導入していますか。(予定も含みます。)

- 導入している
- 導入していない

【問5】【問4】で『導入している』と回答した学校にお尋ねします。

ボランティアが実施する具体的な取り組みとして、あてはまる項目をすべてチェックしてください。

- 読み聞かせ(おはなし会)
- 学校図書館の蔵書の受け入れ・廃棄など
- 学校図書館の環境整備(掃除・飾り付けなど)
- 学校図書館の図書の貸出・返却
- その他( )

【問6】【問5】で『導入していない』と回答した学校にお尋ねします。

導入していない理由として、あてはまる項目を全てチェックしてください。

- 導入したいが、人の確保が難しいため
- 導入したいが、どのような活動を行ってもらえばよいかわからないため
- 新型コロナウイルス感染拡大予防のため(収束したら導入したい)
- 必要性を感じないため
- その他( )





横須賀市の児童生徒の読書実態調査(報告書)

令和5年(2023年)3月発行

横須賀市立中央図書館  
〒238-0017 横須賀市上町1-61  
電話 046-822-2202